

緑の森博物館20回目の冬

平成7年7月に開館した『さいたま緑の森博物館(通称:みどり森)』は、20回目の冬を迎えました。この季節になると、やはり生きものたちの姿が見られなくなり、さみしい感じがするかもしれません。

でも、よく探すと、様々な生きものに出会うことができます。毎年渡ってくる冬鳥たちや、ヨシ原を刈るとよく目撃されるタヌキ、そして暖房で暖められた案内所の中で飛び始めるカメムシなど。

彼らも世代交代を繰り返しながら、みどり森が開館して20回目の冬を、共に迎え、たくましく生きています。

今号のニュースレターは・・・

「冬の虫たち」がテーマです。虫たちは厳しい寒さを乗り越えるために、どこで何をしているのでしょうか？

今号は、虫たちの冬越しについてご紹介！ぜひ、ニュースレターを片手に冬のみどり森を散策してみたいかがでしょうか？



みどり森 里山広辞苑

緑の森博物館がテーマとしている雑木林や湿地・文化などについて、毎号キーワードを挙げて紹介しています。今回は『小正月』です。

◆みどり森「里山ようちえん」

幼児期に親子で里山の自然との触れ合い、野外で遊ぶことを目的とした、自然体験型の森のようちえんです。お弁当持参。

【カエル組】

日時: 2月20日(土) 10:00~13:30
対象: 2015年4月1日の時点で満4~5歳の未就学児と保護者
定員: 20名(先着順)
参加費: 親子2名で1000円(1人追加ごとに500円)
要申込: 1月20日より受付開始

【オタマ組】

日時: 2月24日(水) 10:00~13:30
対象: 2015年4月1日の時点で満2~3歳の未就学児と保護者
定員: 20名(先着順)
参加費: 親子2名で1000円(1人追加ごとに500円)
要申込: 1月24日より受付開始

◆大人の自然観察会

さまざまな動植物が見られるみどり森で、大人向けの自然観察会を行います。自然界の営みを再発見！初心者向けです。

日時: 3月26日(土) 9:30~12:00
対象: 中学生以上
定員: 20名(先着順)
参加費: 100円(保険代)
要申込: 2月26日より受付開始

◆親子はじめての自然観察

親子向けの自然観察会です。春の水辺や雑木林で活動し始めた生きものを間近で観察しましょう。

日時: 3月27日(日) 9:30~12:00
対象: 小学生と保護者
定員: 20名(先着順)
参加費: 1人100円(保険代)
要申込: 2月27日より受付開始

★イベントのお問合わせ・申し込み★

電話(04-2934-4396)で博物館までご連絡ください。また、公式ホームページからお申し込みできます。イベント内容等の詳細は、お気軽にお問合わせください。みなさんのお申し込みをお待ちしております！



「みどり森週末ガイドウォーク」実施中！

上記イベントの他、下記日程で当日募集型のガイドウォークを実施中(定員は毎回15名、年齢制限はありません)。案内所や大谷戸湿地周辺をスタッフがご案内します。内容は毎回変わりますので、どんなテーマかは当日までのお楽しみです！

★1~3月までのガイドウォーク実施予定★

実施日: 1月10日(日)、2月14日(日)、2月27日(土)、3月13日(日)
時間: 土曜日は13:00~14:00、日曜日は11:00~12:00となりますので実施時間にご確認ください。
参加費: 無料(全ての日程で共通) / 当日、案内所にて受付いたします。

ご注意ください

霜が降りた木の橋や、霜柱が融けたためかみなど、滑りやすくなっている所があります。また、強風の日はかかり木の落枝などもありますので、散策する際はご注意ください。降雪により通行止めなどが発生する場合がありますので、案内所または当館HPでご確認ください。

博物館からのお知らせ

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生きものをむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- 2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。
- 3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- 4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
- 5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- 6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
- 7) ゴミは持ち帰りましょう。

◆アクセス◆

★公共交通機関をご利用の場合★
小手指駅南口より西武バス「宮寺西」または「金子駅入口」行き乗車、約25分
「萩原バス停」下車、徒歩約10分

★案内所までの地図★
右のQRコードを読み込むと緑の森博物館のHPのアクセスページが開きます。(一部、携帯電話では確認できない機種があります)



★ご来館時のお願い★
駐車スペースに限りがありますので電車・バスをご利用ください。

開館時間 9:00~17:00 【入館無料】
休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
【公式HP】 <http://saitama-midorinomori.jp/>
指定管理者 株式会社自然教育研究センター

発行: さいたま緑の森博物館
発行年月: 2016年1月
住所: 〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1
TEL/FAX: 04-2934-4396

その15

小正月

参考文献 入間市史 民俗・文化財編

一月十三日から十六日までを小正月といい「マユダマ正月」「女の正月」ともいわれている。

【マユダマ正月】

一月十四日から十六日までは蚕の神様オシラ様をまつる日で、良い繭が取れるように願いをこめて行われていた。「マユダマ」は、うるち米をお湯でこねて丸めたもの。それを山から伐ってきたカタギ(コナラ・クヌギ)の枝に刺した「マユダマ飾り」を床の間などに飾った。飾る際の土台は、ひき臼を用いて、臼の穴に枝を刺し立てた。

【女の正月】

十五日は、正月の間忙しく休む暇が無かった嫁が実家に帰りゆくりする日。嫁いでから初めての新年は、婚家(こんか)で用意した手ぬぐいと紅白の餅を持って帰ったそうです。

みどり森では・・・

マユダマは今年作ってみたいとひそかに考えているスタッフがいたりとか、いないとか・・・
一月十五日の「女の正月」みどり森の案内所スタッフはどのようなになっていくのでしょうか？男性スタッフだけ出勤でしょうか？それとも女性スタッフも出勤でしょうか？
※ちなみに女性スタッフは「休みじゃなくてもいいよ。」と、言っておりました。働き者ですなあ。

冬の虫たち ~寒い冬を乗り切るための作戦~

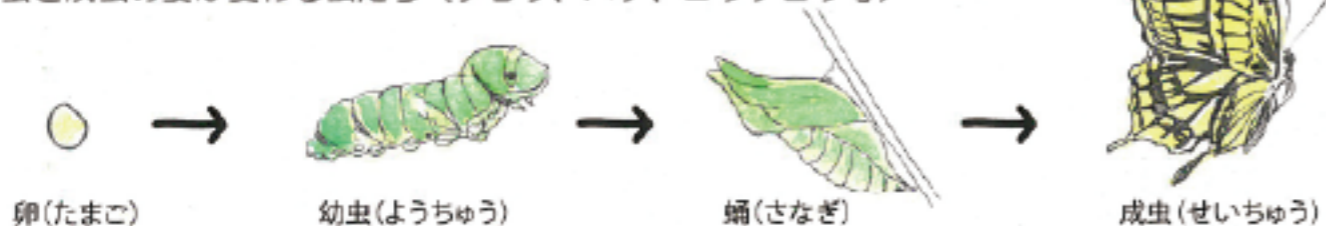
春夏秋と、沢山の昆虫が活動していたみどり森。しかし、冬になるとその姿を見ることは少なくなります。では、彼らは一体どこで何をして冬を過ごしているのでしょうか？本号では、そんな昆虫の冬越しを取り上げます。

姿を変える?! 虫たちの成長過程

昆虫たちには、成虫になるまでの過程を、姿を変えながら成長するという特徴があります。そして、いずれかの形態で冬を越します。ここでは、代表的な2つの成長過程をご紹介します。
※一部の虫の仲間では以下の2つとは異なる、成長過程を経て成虫になる仲間もいます。

★完全変態★

幼虫と成虫の姿が変わる虫たち（チョウ、ハチ、コウチュウ等）



★不完全変態★

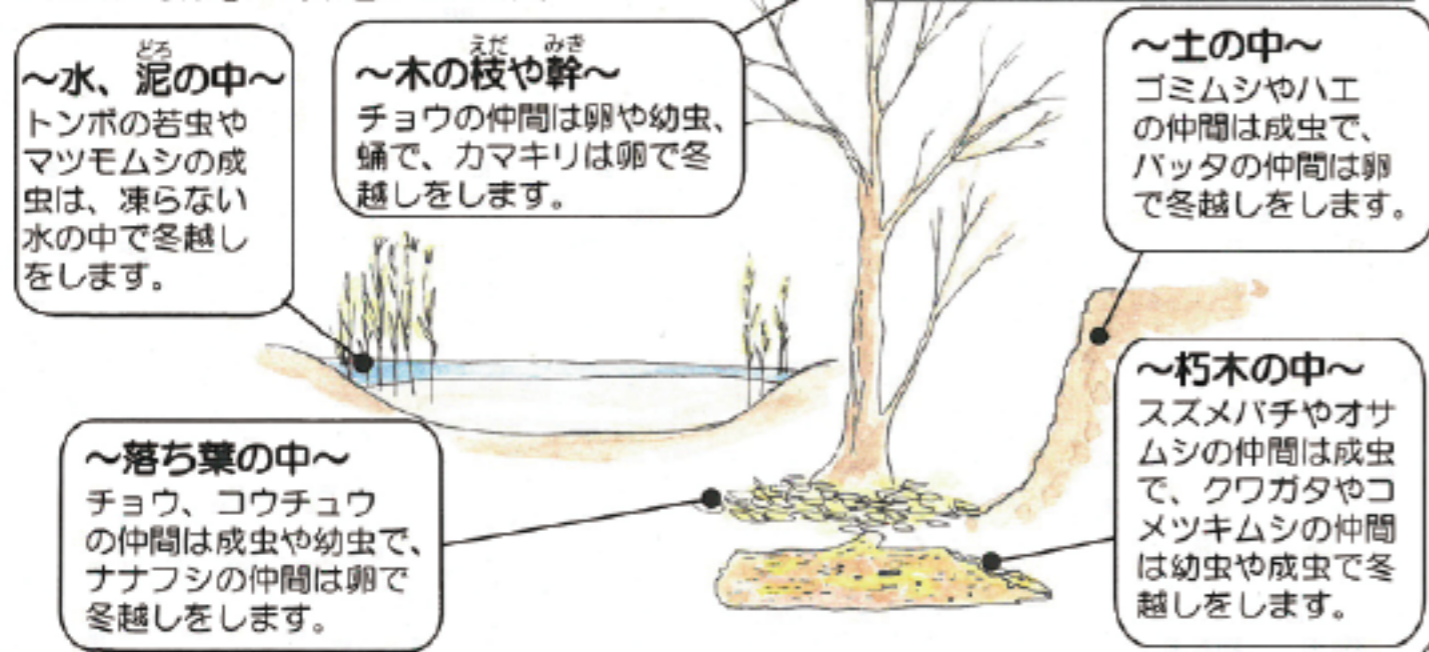
若虫が脱皮を繰り返して成虫になる虫たち（トンボ、カメムシ、バッタ等）



冬越しの場所は？

昆虫はいろいろな場所で、いろいろな形態で冬を越しています。

※各種類の仲間の中には、違った形態で冬越しをする種類もいます。



そんなに探さなくても見つかる？冬越しの虫

土を掘らなくても、朽木を崩さなくても、よく探すことで見つけることができる生きものたちを、一部ご紹介しします。

オオカマキリの卵鞘（らんしょう）



木の枝先や草むらにオオカマキリの卵鞘を見つけることができます。生み付けられている高さで、その年の雪の深さが分かるといわれていますが、本当かどうかは定かではありません。

他にもみどり森には、コカマキリやハラビロカマキリがオオカマキリの卵鞘生息しているのを探してみてくださいね。

ヨコヅナサシガメの若虫の集団越冬



サクラやエゴノキ等の幹のくぼみに、たくさんの若虫がいることがあります。一日中、日陰のくぼみが好きなので、日の当たる所ではあまり見かけません。幹の周りをぐるりと一周しながら探してみると見つかるかも…。

イラガの仲間の繭（まゆ）



枝先の分かれ目や幹などに、卵型の固い繭を見つけることができます。カルシウム分を多く含む繭は、とても硬く、小さな鳥の卵のようにも見えます。

ミズイロオナガシジミの卵



枝先の分かれ目や新芽の近くにとて小さなトゲトゲの卵が産み付けられていることがあります。低いコナラの枝先を虫メガネやルーペで探してみよう。
直径1mm程の卵

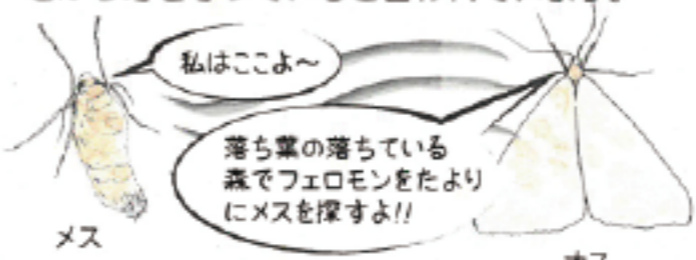
ウスタビガの繭についた卵



葉の落ちた木の枝に、きれいな緑色の繭を見つけることができます。この繭の中は空っぽですが、まれに繭に黒いウスタビガの卵が産みつけられていることがあります。
直径2mm程の卵

冬に活動する虫!?

フコシャクガの仲間は、冬に活動を始めるガの仲間です。みどり森では、時期をずらしながら、数種類のフコシャクガが活動しています。オスは林の中を飛びながらメスを探します。メスは羽根が退化して飛べない種類も多く、これは体の表面積を少なくして、寒さから身を守っていると言われています。



冬をどう過ごす？

虫たちは様々な場所・形態で冬越しします。彼らはなるべく変化の少ない場所を選んでくれるのかもしれませんが、1日の気温の差が少なく、同じ湿度で過ごせる落ち葉の下や日かげ、土の中…。落ち葉がたくさんあるみどり森は、様々な虫たちが冬越しするのに適した環境が多く存在しているのかもしれませんが。観察するときは、次の春にも彼らに会えるように、彼らの生息環境をむやみに傷つけないで観察してくださいね。